日本のユネスコエコパーク

人と自然が一緒に暮らす

日本のユネスコエコパークは、1980年（昭和55年）に登録された、志賀高原（長野県、群馬県）、白山（富山県、石川県、福井県、岐阜県）、大台ヶ原・大峯山・大杉谷（奈良県、三重県）、屋久島・口永良部島（鹿児島県）、2012年（平成24年）に登録された綾（宮崎県）、2014年（平成26年）に登録された只見（福島県）、南アルプス（山梨県、長野県、静岡県）、2017年（平成29年）に登録された祖母・傾・大崩（宮崎県、大分県）、みなかみ（群馬県、新潟県）及び2019年（令和元年）に登録された甲武信（山梨県、埼玉県、長野県、東京都）の10か所があり、その核心地域や緩衝地域は、国立・国定公園や国有林の保護林として保全されています。

ユネスコエコパークは、豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶとともに、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す地域のモデルとして注目されています。

只見ユネスコエコパーク　ブナ天然林（©只見町）

甲武信ユネスコエコパーク 金峰山(©甲武信ユネスコエコパーク)

綾ユネスコエコパーク　照葉大吊橋（©綾町）

南アルプスユネスコエコパーク、真原の桜と甲斐駒ケ岳（©南アルプス市）

大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク　大台ヶ原西谷ブナ林（©大台町）

ユネスコエコパーク申請の流れ

※ユネスコエコパーク世界ネットワークへの加盟申請の流れ

ユネスコ本部
（例年 5～7月頃に MAB-ICC(国際調整理事会)が開催され、推薦があった地域について審議）

申請書提出（9月末）↑　↓ユネスコエコパーク登録

日本ユネスコ国内委員会MAB計画分科会
候補地についての調査、選考、審査 ／審査基準の策定　等

申 請 ↑　↓ユネスコエコパーク登録決定の通知

地方自治体等

◇ 詳細・お問合せ ◇

日本ユネスコ国内委員会
自然科学小委員会　人間と生物圏（MAB）計画分科会
事務局：文部科学省国際統括官付

〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
TEL　:03-5253-4111（内線 2557）　FAX : 03-6734-3679
Email ：jpnatcom@mext.go.jp
WEB ：http://www.mext.go.jp/unesco/index.htm（日本ユネスコ国内委員会 HP）
http://www.facebook.com/jpnatcom（日本ユネスコ国内委員会 facebook）

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization ・ Japanese National Committee for the Man and the Biosphere Programme ユネスコエコパーク

2019年(令和元年)7月作成

みなかみユネスコエコパーク、一ノ倉沢（©みなかみ町）

白山ユネスコエコパーク、ダナ高原から眺める白山（©白山ユネスコエコパーク協議会）

屋久島・口永良部島ユネスコエコパーク、ウミガメ（©屋久島町）

祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク、椎河内渓谷（©佐伯市）

ユネスコエコパーク
Biosphere Reserves

自然と人の調和と共生

日本ユネスコ国内委員会
Japanese National Commission for UNESCO

ユネスコエコパークとは

生物圏保存地域（ユネスコエコパーク※1, Biosphere Reserve : BR）は、ユネスコ人間と生物圏（MAB : Man and the Biosphere）計画※2 の枠組みに基づいて、ユネスコによって国際的に認定された地域です。

世界遺産が、手つかずの自然を守ることを原則とする一方、ユネスコエコパークは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目的とする取組です。

認定地域は、ユネスコエコパーク世界ネットワークの一員として、国内外での多様な連携、協力活動を積極的に実施するとともに、各地域の取組をより一層推進することが期待されます。

※1 2010年（平成22年）1月、生物圏保存地域（BR: Biosphere Reserve）により親しみをもってもらうために、BR を日本国内ではユネスコエコパークと呼ぶことが日本ユネスコ国内委員会で正式に決定されました。

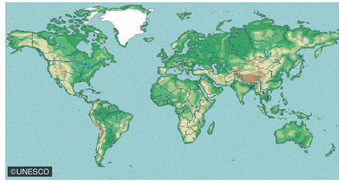
※2 人間と生物圏（MAB）計画とは、1971年（昭和46年）に開始された、生物多様性の保護を目的に、自然及び天然資源の持続可能な利用と保護に関する科学的研究を行うユネスコの政府間共同事業です。

Katon-Karagay BR, Kazakhstan ©UNESCO

Mount Chibo BR, Korea ©UNESCO

ユネスコエコパークの世界ネットワーク

世界のユネスコエコパークの登録総数は、124か国、701地域です。
（2019年(令和元年)6月現在）



Rhön BR, Germany ©UNESCO

Mancha Humeda BR, Spain ©UNESCO

ユネスコエコパークの仕組み

3つの機能

1 保全機能
（生物多様性の保全）
人間の干渉を含む生物地理学的区域を代表する生態系を含み、生物多様性の保全上重要な地域であること。

2 学術的研究支援
持続可能な発展のための調査や研究、教育・研修の場を提供していること。

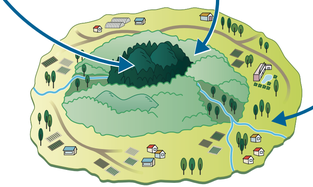
3 経済と社会の発展
自然環境の保全と調和した持続可能な発展の国内外のモデルとなりうる取組が行われていること。

それぞれの機能は独立のものではなく、ユネスコエコパークを相互に強化する関係です。
この３つの機能をはたすために３つの地域を設定しています。

核心地域
厳格に保護
長期的に保全

緩衝地域
核心地域保護のための
緩衝的地域
教育 研修 エコツーリズム

移行地域
人が生活し、
自然と調和した持続可能な
発展を実現する地域



3つの地域（ゾーニング）

ユネスコエコパークでは どんなコトをしているの？

核心地域

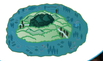
多くの動植物の生育が可能であり、法的にも厳しく保護され、長期的に保全されている地域です。

▲ 只見ユネスコエコパーク，会津朝日岳山頂部付近の雪食地形（©只見町）

▲ 白山ユネスコエコパーク，紅葉の刈込池（©白山ユネスコエコパーク協議会）

▲ 志賀高原ユネスコエコパーク，四十八池と志賀山（©山ノ内町）

移行地域



人々が居住し生活を営んでおり、自然環境の保全と調和した持続可能な地域社会の発展のためのモデルとなる取組が行われています。

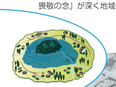
▲ みなかみユネスコエコパーク，利根川のラフティング（©みなかみ町）
森林が育んだ豊かな水はアウトドアスポーツにも利用され、地域の主要産業である観光業の柱の一つになっています。

▲ 只見ユネスコエコパーク，ゼンマイ折り（©只見町）
雪解けとともに採取したゼンマイは、綿毛を取り除き、茹でて、籠に広げ、ゼンマイ揉みを行いながら天日干し。乾燥ゼンマイとする。自然の資源を利活用し絶やすことなく自然と共生してきた只見の伝統的な文化です。

▲ 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク，高千穂の夜神楽（©高千穂町）
自然の恵みに感謝し、豊作を祈願する「荒礼」の1つであり、『自然への畏敬の念』が深く地域の人々に根付いていることの象徴です。

ユネスコエコパークの移行地域では、自然環境にダメージを与えることなく、自然の恵みを生かした各地の特色ある産業振興が展開され、環境を守りながら、循環型で持続可能な地域づくりが行われています。

緩衝地域



核心地域の周囲または隣接する地域で、核心地域のバッファーとしての機能を果たします。ユネスコエコパークのための実験的研究だけで無く、教育や研修、森林セラピー、エコツーリズムなど、自然の保全・持続可能な利活用への理解の増進、将来の担い手の育成等が行われています。

▲ 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク，大崩山登山口（©延岡市）

▲ 屋久島・口永良部島ユネスコエコパーク，海水浴いなか浜（©屋久島町）

▲ 南アルプスユネスコエコパーク，体験学習（©南アルプス市）

▲ 白山ユネスコエコパーク，豪雪の中での自然体験活動（©白山ユネスコエコパーク協議会）

▲ 大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク，名水まつり野草の観察と山菜の試食会（©天川村）

▲ 志賀高原ユネスコエコパーク，地獄谷野猿公苑（©山ノ内町）

▲ 綾ユネスコエコパーク，綾南川流域の照葉樹林（©綾町）

※エコツーリズムとは、地域ぐるみで自然環境や歴史文化などの地域固有の魅力を人々に伝える試み。いろいろな人がその価値を知る事によって、自然環境や地域の価値が理解され、保全につながっていくことをめざしています。

ユネスコエコパークと持続可能な開発のための教育（ESD）、ユネスコスクール

ユネスコエコパークは、ESDの学習の場として有用であり、ユネスコエコパーク、ESD、ユネスコスクールの取組を連携させることによる相乗効果が期待されています。

持続可能な開発のための教育（ESD: Education for Sustainable Development）とは

持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

1．持続可能な社会づくりを構成する「6つの視点」
→これらの視点を軸にして、教員・生徒が持続可能な社会づくりに関わる課題を見出す。

ー持続可能な社会作りの構成概念（例）ー
- Ⅰ 多様性（いろいろある）
- Ⅱ 相互性（関わり合っている）
- Ⅲ 有限性（限りがある）
- Ⅳ 公平性（一人一人大切に）
- Ⅴ 連携性（力を合わせて）
- Ⅵ 責任性（責任を持って）

2．持続可能な社会づくりのための課題解決に必要な「7つの能力・態度」

ーESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）ー
- ①批判的に考える力
- ②未来像を予測して計画を立てる力
- ③多面的・総合的に考える力
- ④コミュニケーションを行う力
- ⑤他者と協力する力
- ⑥つながりを尊重する態度
- ⑦進んで参加する態度

ESDの概念図

関連する様々な分野を"持続可能な社会の構築"の観点からつなげ、総合的に取り組むことが必要です。

ユネスコスクールとは

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。

現在、世界182か国で1万1千校以上のユネスコスクールがあります。
日本国内の加盟校数は、1116校です（2019年6月現在）。
文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付けています。

※ユネスコスクール/ESDパンフレット（文部科学省ESDポータルサイトより）
http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/pamphlet.html

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
National Coordination Japan
UNESCO Associated Schools

ユネスコエコパークを活用したESDの取組例

～ユネスコエコパークに暮らす一人として地域を知り、地域を愛する子どもの育成～

志賀高原ユネスコエコパークでは、地域の豊かな自然をフィールドに、地域の環境や伝統文化、地域づくりなどを題材としたＥＳＤが盛んに行われています。

例えば山ノ内町立東小学校では、閉鎖したスキー場の森林再生のため、植樹用の苗を育てる育苗プロジェクトに取り組んでいます。この活動では、1～2年生が地元産のドングリから芽を育て、3～4年生が畑で苗を大きくし、5～6年生がその苗をスキー場跡地に植樹するといったサイクルで、6年間を通して体験的な地域学習を実践しています。

志賀高原ユネスコエコパークでは、移行地域の全ての小・中学校がユネスコスクールに加盟し、ユネスコエコパークを活かした多様なテーマの体験的な地域学習を実践するとともに、「信州ＥＳＤコンソーシアム」が毎年開催する成果発表・交流会で報告することで、学びを深めています。各学校では、これらの学びをＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）とも関連づけながら総合的に展開し、これからの持続可能な地域づくりを担う子どもたちの育成を目指しています。